

人生最終章 一生に一度は行きたいスポット

「東京国立天文台」

桑田直宏

ここ数年は、自分が動けなくなるまでに一度は行ってみたいと思っていたところを国内外でリストアップして、出張や休日に出かけたときに、出来るだけ絡めて訪れるようにしています。



今回訪れたのは東京都三鷹市にある国立天文台です。東京出張の翌日を休日にして出かけました。私のような昔からの天文ファンの聖地巡礼です。

アクセスはJR武蔵境駅からのバスが最短距離になります。私は思い込みで三鷹駅に降りてしまいました。姫路天文台と書いてあるから姫路駅で降りてみたら、天文台は網干駅の近くだったみたいなのです。

仕方なくタクシーを使いましたが、えらく高くつきました。

タクシーで正面入り口まで連れて来てくれたのですが、このあたりは東京のベットタウンとなり、にぎやかな街になっています。東京麻生にあった天文台を大正13年に空の暗い三鷹に移転したようですが、当時の責任者は100年も経たずにこんなことになるとは想像もできなかったでしょう。

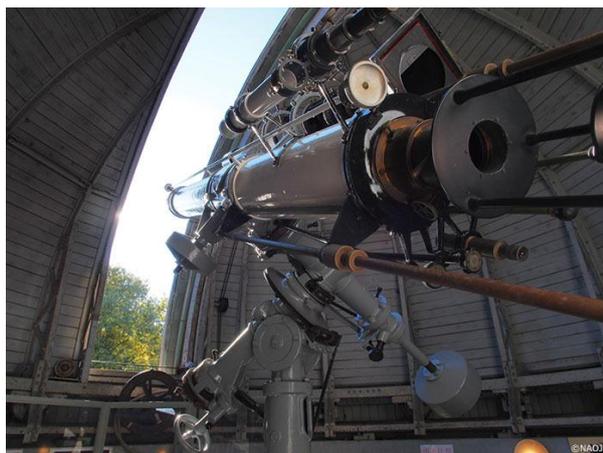
正面玄関で名前と住所を記入すると胸に張る見学者シールをもらって手続き完了です。見学コースは決まっていて、コースにない建物は入れません。

森のような構内を歩いていくと第一赤道儀室が見えてきました。大正10年に完成したドームなので、風雪に耐えた歴史を感じる建物になっています。この建物は国の登録有形文化財になっています。



中に入るとドイツはツァイス製の 20 cm 屈折赤道儀がありました。

今でも一般公開で太陽観測会に使用されているようです。当時の価格は目が飛び出るような金額だったと思います。赤道儀は電動モーターではなく重錘式というのがいかにもクラシックで渋いです。



次の施設に行く道中にあったのが「太陽系ウォーク」。太陽から各惑星がどれだけ離れているかが歩いて実感できます。やっぱりというか、木星や土星は遠いです。宇宙がいかに広大かがわかりますね。

メインディッシュは天文台歴史館です。子供の頃に写真で見た 65 cm 屈折望遠鏡が 15m ドームに鎮座しています。焦点距離はなんと 10m！ここまで長く大きいと望遠鏡には見えないです。これもツァイス製です。これを 1998 年まで観測に使っていたというのですから驚きです。



他にもたくさんの施設があり、説明を丁寧に見ていくと 1 日がかかります。

お昼は天文台の職員が使っている食堂で昼食をしました。平日は一般の方も OK とのことです。食堂は教職員や学生、留学生らしき人でいっぱいでした。隣には売店があって、国立天文台グッズや雑貨などが買えます。

天文ファンなら一度は訪れたいところです。

住所	〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
アクセス	JR 武蔵境駅から小田急バスで天文台前へ
見学時間	年末年始を除く、毎日午前 10 時から午後 5 時まで 入場無料